

－障害のある人たちとのコラボレーションで創る新しい舞台芸術－

2007年度「エイブルアート・オンステージ」支援先決定

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 松尾 憲治）は、2004年7月から社会貢献事業としてNPOエイブル・アート・ジャパン（会長 嶋本 昭三）とともに「エイブルアート・オンステージ」を実施しています。当事業は障害のある人たちに演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術の分野で自らを表現する機会を提供し、プロの舞台人やアーティストとのコラボレーションを通して、これまでに見たことのない表現や作品作りに挑戦し、新しい舞台表現の可能性を発見しようというものです。

今般、当事業で実施している3つのプログラム^(注)のうちの一つ「活動支援プログラム」における2007年度支援先7グループを決定するとともに、今後約1年間にわたり、各グループの活動を運営面・資金面から支援してまいります。

(注) 3つのプログラムの詳細については、別紙をご参照ください。

1. 全国52のグループのなかから7つの支援先を決定

ご応募いただいた全国52のグループのなかから、演劇・音楽等の専門家を含む実行委員会で選考(書類および面接)し、7グループを支援先として決定しました。

今回決定した2007年度の支援先は次のとおりです。 (敬称略)

グループ	代表者	主な活動地域	表現ジャンル
特定非営利活動法人 みやぎダンス	定行 俊彰	宮城県仙台市	ダンス
「みつつのうた」プロジェクト実行委員会	小島 希里 / 山田 珠実	東京都練馬区	パフォーマンス
即興からめーる団	赤羽 美希	東京都港区	音楽
劇団人の森ケチャップ	田中 智子	千葉県松戸市	演劇
特定非営利活動法人 ダンスボックス	大谷 いづみ	大阪府大阪市	ダンス
ホスピタルサーカス実行委員会	坂井 基紀	滋賀県守山市	パフォーマンス
お遊び助っ人企画 すっごい演劇プロジェクトチーム	森山 淳子 / 倉品 淳子	福岡県福岡市	演劇

2. 全国各地で行なわれる各活動を運営面・資金面にて支援

今回支援する7グループは、2007年8月から2008年3月にかけて各地で組織を立ち上げ、参加者の募集、ワークショップやレッスンを行ない、2008年3月から4月にそれぞれの地元で「舞台公演(作品発表)」を開催します。当事業では、各グループの活動を運営面・資金面から支援してまいります。

「エイブルアート・オンステージ」は次の3つのプログラムの総称です

活動支援プログラム

- ・障害のある人が参加するさまざまな舞台芸術の取り組みに対して、上限150万円の支援金を提供するプログラムです。
- ・2004年から5年間の計画で、毎年6～8グループを支援しています。
- ・支援対象者は各地でグループを立ち上げ、参加者募集、ワークショップやレッスンを実施、地元での公演を行ないます。
- ・活動終了後はすべての支援先が集まる報告会で、活動のプロセスや作品の映像を発表します。

コラボ・シアター・フェスティバル

- ・エイブルアート・オンステージに参加したグループの成果を多くの人に伝え、次に続くグループへの課題を提示する場です。
- ・エイブルアート・オンステージ実行委員のアドバイス等をふまえて、地元公演で発表した作品のうちいくつかを、さらに発展させて上演したり、シンポジウムや展示などさまざまな方法で、各参加団体の成果を伝えます。
- ・ゲストや観客、新たに加わるスタッフとの意見交換などを通して、新しい舞台の在り方、創り方を共に考える場にもなります。

飛び石プロジェクト

- ・英国から2人の演出家を招き、さまざまな人たちとワークショップを通じて交流し、作品づくりを行なうコラボレーションプロジェクトです。
- ・2006年2月から約2年間かけて、2人の演出家が交互に8回の来日を重ね、飛び石を置くように東京とそれ以外の地域でワークショップを繰り返します。
- ・さまざまな障害のある人や俳優などアーティストの出会いや発見から、障害の有無や種別、言葉や文化の違いも越えて、演劇の新たな可能性を探り作品化に挑戦します。
- ・2007年10月にはこのプロジェクトを通して作り上げた作品を発表します。

実行委員：敬称略

木佐貫 邦子（舞踏家、桜美林大学准教授）

塚田 美紀（世田谷美術館学芸員）

永井 多恵子（財団法人せたがや文化財団理事）

野村 誠（作曲家）

平田 オリザ（劇作家、演出家、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）

吉野 さつき（ワークショップ・コーディネーター、アートマネージャー）

播磨 靖夫（エイブル・アート・ジャパン常務理事）

殿岡 裕章（明治安田生命保険相互会社常務執行役）

以上